令和７年度　**歴史総合＋日本史探究**（05コア・02プラス）

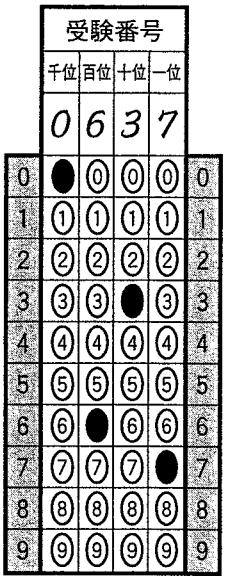
試験開始の合図があるまでに，次の注意をよく読んで，間違いのないように受験してください。

1．試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。

2．この冊子には問題15ページ，マークによる解答用紙マーク，記述による解答用紙記述各１枚がセットになっています。

3．試験開始の合図があったら，問題のページ数を確認し，解答用紙マーク・記述をミシン目で折ってから冊子よりていねいに切り離し，すべての解答用紙に受験番号を記入してください。解答用紙マークの受験番号欄は，右を参考に記入してください。

例　受験番号が０６３７のとき



4．問題・解答用紙に落丁，乱丁，印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。

5．解答用紙マークはすべてHBの黒鉛筆（シャープペンシル可）で記入することになっています。答えを訂正する場合は，プラスチック消しゴムでよく消して，訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。

6．解答用紙記述は，HB以外の黒鉛筆（シャープペンシル可）や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。

7．文字ははっきり，ていねいに書いてください。

8．解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。

9．複数の解答用紙がある場合，使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

10．「歴史総合＋日本史探究」のコア試験の配点は100点，プラス試験の配点は120点です。プラス試験の受験生の得点は，コア試験とプラス試験の配点比率に応じた調整を行います。
なお，各問題には，コア試験の配点のみ記載します。

2025 歴史総合＋日本史探究　解答用紙 マーク

05コア・02プラス

良い例	悪い例
●	● ⊘ ⊗ ◐

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	⓪	⓪	⓪	⓪	0
1	①	①	①	①	1
2	②	②	②	②	2
3	③	③	③	③	3
4	④	④	④	④	4
5	⑤	⑤	⑤	⑤	5
6	⑥	⑥	⑥	⑥	6
7	⑦	⑦	⑦	⑦	7
8	⑧	⑧	⑧	⑧	8
9	⑨	⑨	⑨	⑨	9

Ⅰ

	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	
(1)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(1)
(2)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(2)
(3)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(3)
(4)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(4)
(5)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(5)
(6)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(6)
(7)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(7)
(8)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(8)
(9)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(9)
(10)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(10)
(11)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(11)
(12)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(12)
(13)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(13)
(14)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(14)
(15)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(15)
(16)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(16)
(17)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(17)
(18)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(18)
(19)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(19)
(20)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(20)

Ⅱ

	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	
(1)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(1)
(2)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(2)
(3)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(3)
(4)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(4)
(5)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(5)
(6)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(6)
(7)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(7)
(8)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(8)
(9)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(9)
(10)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(10)

Ⅲ

	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	
(1)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(1)
(2)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(2)
(3)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(3)
(4)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(4)
(5)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(5)
(6)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(6)
(7)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(7)
(8)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(8)
(9)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(9)
(10)	㋑	㋺	㋩	㋥	㋭	(10)

本欄は記入しないこと。

十位	一位
⓪	⓪
①	①
②	②
③	③
④	④
⑤	⑤
⑥	⑥
⑦	⑦
⑧	⑧
⑨	⑨

CB05J-OMR

2025 歴史総合＋日本史探究 解答用紙 記述 05コア・02プラス 受験番号

総点

Ⅳ

(1)		(6)	『　　』
(2)		(7)	
(3)		(8)	
(4)		(9)	
(5)		(10)	氏

評点

Ⅴ

(1)		(6)	景気
(2)	景気	(7)	
(3)		(8)	
(4)	原則	(9)	
(5)	予算	(10)	

評点

学習院大学
国際社会科学部

学習院大学
経済学部

令和７年度　入試問題訂正票

法・経済・文・理・国際社会科 学部 コア試験
法・経済・文・理・国際社会科 学部 プラス試験

科目 歴史総合+日本史探究 の試験問題について、訂正があります。

記

9 ページ　1 行目	
誤	正
ビジネスチャンスととともなった。	ビジネスチャンスともなった。

以 上

問題は次のページより始まります。

I　次の文章を読み，〔　　〕内の語句から最も適切な語句を１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

戦いの歴史は，人類の発生とともに古い。

『三国志』のいわゆる「魏志」倭人伝によれば，倭国はもともと男性の王が治めていたが，２世紀末に国内が乱れ，何年も内部抗争を続けていたという。これを「倭国大乱」と呼ぶ。こうした戦いの末に擁立されたのが，邪馬台国の卑弥呼であった。その「魏志」倭人伝によると，卑弥呼は「(1)〔㋑　鬼道　㋺　音楽　㋩　機織り　㋥　算術　㋭　詩文〕」を事としたという。

さらに倭（ヤマト政権）は，４世紀後半には朝鮮半島へ軍事介入をしていく。(2)〔㋑　加耶　㋺　百済　㋩　宋　㋥　新羅　㋭　高句麗〕の広開土王（好太王）碑の碑文には，倭と交戦したことが記されている。そして，朝鮮半島の騎馬隊と交戦することによって，その威力を思い知らされたのであろう。以後，日本にも騎兵が登場することになる。

律令制における兵役は，(3)〔㋑　正丁３～４人　㋺　良民３～４人　㋩　中男３～４人　㋥　正丁50人　㋭　良民50人〕に１人の割で兵士が徴発され，兵士は諸国の軍団で訓練を受けた（軍団制）。この軍団制では歩兵が主であったと考えられるが，「弓馬に便ならむ者」によって騎兵隊が組織されることになってはいた。この騎兵は馬に乗りながら弓を射る騎射戦術を得意にするもので，中世の武士へと発展していく。

９世紀になって群盗の蜂起が続くと，朝廷は情勢が不穏な国には軍事担当官である(4)〔㋑　通信使　㋺　按察使　㋩　押領使　㋥　修信使　㋭　勘解由使〕を設置した。そして，天慶の乱の鎮圧に際し(4)が派遣されるが，これらがのちに武士団の始祖として仰がれるようになっていく。たとえば，下野国の(4)である藤原秀郷が，平将門を討つ際に尽力した。すなわち，天慶の乱勲功者の中から，武士は生まれてきたのであった。

また，外敵の襲来にあたる刀伊の入寇に際しても，大宰権帥の(5)〔㋑　藤原行成　㋺　藤原隆家　㋩　藤原道隆　㋥　藤原兼家　㋭　藤原実資〕が，九州の武士たちを指揮して撃退した。このことは，当時の九州にも武士団がつくられつつあっ

たことを示している。ちなみに，(5) は藤原道長の甥にあたり，兄の伊周とともにかつて道長と権力争いをした人物であった。

保元・平治の乱以降の平氏政権，ならびに治承・寿永の乱以後の鎌倉幕府は，全国の軍事・警察業務を中心的に担う存在として位置づけられた。しかし，承久の乱以前における鎌倉幕府の御家人制は，東日本中心であった。それが，承久の乱後，幕府は3上皇を配流し，かつ当時の天皇を廃するとともに，(6)〔㋑ 後鳥羽 ㋺ 順徳 ㋩ 後堀河 ㋥ 土御門 ㋭ 仲恭〕天皇を即位させた。そして，上皇方についた貴族や武士の所領を没収することで，西日本においても，軍事的主導権が幕府に完全に移行することになった。

13世紀後半，刀伊の入寇以来の外敵の侵攻事件であるモンゴル襲来が起こった。この戦いでは，火薬を使った武器（火器）である「てつはう」やモンゴル軍の集団戦法に苦戦することになる。その様子は，肥後国の御家人竹崎季長がのちに描かせた『蒙古襲来絵詞』に見られる。ちなみに，竹崎は文永の役後，のち (7)〔㋑ 和田合戦 ㋺ 霜月騒動 ㋩ 正中の変 ㋥ 宝治合戦 ㋭ 平禅門の乱〕で滅ぶことになる安達泰盛に会って，戦功を認めさせることに成功した。

南北朝内乱期になると，一般の住民も兵粮米を供出したり，それを運ぶ陣夫として戦場に赴いたばかりでなく，「野伏（のぶせり）」という歩兵として徴発され，実際の戦闘に加わることもあった。この「野伏」は鎌倉時代に「悪党」と呼ばれて弾圧された武士・農民たちと人的に重なる存在であり，いわば悪党の武力が戦場に持ち込まれたといえる。室町幕府創設時の功として (8)〔㋑ 所司 ㋺ 連署 ㋩ 探題 ㋥ 執事 ㋭ 評定衆〕となった高師直も，配下に悪党的な人々を数多く抱えていたといわれる。

また，15世紀後半，特に応仁の乱になると，東西二陣営に分かれてぶつかりあった大名たちの戦力には「足軽」と呼ばれる新しい戦法もあらわれた。応仁の乱において足軽が略奪している様子は，(9)〔㋑ 『山王霊験記絵巻』 ㋺ 『真如堂縁起』 ㋩ 『石山寺縁起絵巻』 ㋥ 『粉河寺縁起絵巻』 ㋭ 『信貴山縁起絵巻』〕にうかがうことができる。

このように，中世後半になると，野伏や足軽といった歩兵が戦場で占める役割も高まっていった。

さらに，中世末期になると，武装・戦闘形態において画期をもたらしたのが，16世紀半ばの鉄砲伝来である。ポルトガル人によってもたらされた鉄砲は，またたく間に全国に広がり，それまでの戦いの姿を一変させた。そのため，鉄砲も大量につくられるようになった。鉄砲生産地として栄えた場所として，(10)〔㋑ 陸奥 ㋺ 大隅 ㋩ 尾張 ㋥ 紀伊 ㋭ 近江〕国の国友村がある。

鉄砲足軽隊の整備など軍制改革を行った戦国大名のなかから，強大な軍事力で天下統一をなしとげる者が現れた。豊臣秀吉である。秀吉は1590年に全国を統一すると，今度は対外戦争へと乗り出した。秀吉は，大陸出兵の前進基地として (11)〔㋑ 尾張 ㋺ 壱岐 ㋩ 対馬 ㋥ 肥前 ㋭ 隠岐〕国に名護屋城を築き，朝鮮への侵略戦争を進めていった。

秀吉の死去によって，朝鮮侵略は失敗に終わった。また，徳川家康が関ヶ原の大勝によって権力を掌握し，江戸に開かれた幕府に諸大名が従属する体制が固められた。さらに，家康は (12)〔㋑ 南禅寺 ㋺ 寛永寺 ㋩ 護国寺 ㋥ 方広寺 ㋭ 増上寺〕の鐘銘を口実に，大坂の陣で豊臣方に戦いをしかけ，攻め滅ぼした。以後，2世紀以上にわたって大規模な戦乱のない世の中が到来したので，いわゆる「徳川の平和」とも呼ばれる。

ただし，諸大名間の戦乱は終息したが，領主の苛酷な年貢徴収やキリスト教徒への弾圧に抵抗した土豪・百姓の一揆にあたる島原の乱が起った。この鎮圧のために，幕府は九州の諸大名ら約12万人の兵力を動員した。さらに，幕府は，当時平戸に商館を設置していた (13)〔㋑ スペイン ㋺ オランダ ㋩ 清 ㋥ イギリス ㋭ ポルトガル〕の船をも回して，海上から砲撃させもした。

また，1669年には，シャクシャインに率いられて広範囲のアイヌが蜂起する戦いが起こった。幕府は旗本松前泰広を現地に派遣して鎮圧の指揮をとらせ，泰広らは和睦と見せかけて酒宴を催し，シャクシャインらおもだった人々を謀殺した。すなわち，この戦いでアイヌに対する松前藩の支配は強化された。アイヌとの交易のあり方も変化があり，18世紀前半までには和人商人が運上金を上納して交易を経営する (14)〔㋑ 村請制 ㋺ 商場知行制 ㋩ 糸割符制度 ㋥ 寺請制度 ㋭ 場所請負制〕がおおきく広がった。

泰平の世が続くと，幕府ならびに諸藩の軍事力は相対的に低下していったが，そ

のことを気づかさせたのが異国船の来航であった。1804年，長崎に来航したレザノフに対して，幕府は約半年間にわたって回答を待たせたのち，通商要求を拒絶した。長崎滞在中厳しい扱いを受けたうえで，さらに通商要求も拒否されたレザノフは，報復のため，部下に蝦夷地の日本側拠点の襲撃を命じた。日本側がゴローウニンを捕らえたことへの報復として，ロシア側は ⑮〔㋑ 大黒屋光太夫 ㋺ 浜田彦蔵 ㋩ 高田屋嘉兵衛 ㋥ 桂川甫周 ㋭ 中浜万次郎〕を捕らえて，抑留した。このように，日本とロシアとの緊張関係はピークに達した。ただし，このゴローウニン事件が解決すると，北方警衛に対する幕府の熱意は急速にしぼみ，海防体制は大幅に縮小された。

戦争形態における騎兵の登場や鉄砲の伝来と並ぶ大きな画期は，幕末・明治維新期である。特に，身分制を解体した明治政府は徴兵制をしき，「国民皆兵主義」にもとづく軍隊をつくり出していった。ただし，当初は代人料として ⑯〔㋑ 3 ㋺ 70 ㋩ 130 ㋥ 270 ㋭ 500〕円を払った者は免役となるなど，「国民皆兵主義」の徹底には時間がかかった。

西南戦争の鎮圧後，国内における不平士族の反乱の可能性は小さくなったため，明治政府は徐々に軍隊を外征軍に変えていった。その行き着くところが，対外戦争としての日清・日露戦争であった。日清戦争にせよ，日露戦争にせよ，いざ戦争がはじまると，日本国内の世論は戦争を強く支持した。与謝野晶子が，夫の鉄幹主宰の雑誌 ⑰〔㋑ 『明星』 ㋺ 『キング』 ㋩ 『万朝報』 ㋥ 『太陽』 ㋭ 『ホトトギス』〕に「君死にたまふこと勿(なか)れ」という詩を載せることはあったが，国民の大部分は好戦論であった。

大正期は一般に平和な時代と思われがちであるが，実際は日本にとって戦争が続いた。第一次世界大戦に日本は連合国として参戦した。また，ロシア10月革命でボリシェヴィキ政権が誕生したことから，その翌年には ⑱〔㋑ 寺内正毅 ㋺ 第1次山本権兵衛 ㋩ 高橋是清 ㋥ 第2次大隈重信 ㋭ 原敬〕内閣は干渉戦争としてシベリア出兵を開始した。

昭和期に入っても，戦争は続く。特に，日中戦争からアジア太平洋戦争にかけて，約8年間戦争が続いた。そして，総力戦を遂行するため，1937年に設置された ⑲〔㋑ 商工省 ㋺ 枢密院 ㋩ 軍需省 ㋥ 資源局 ㋭ 企画院〕によって物

資動員計画が作成されたが，計画では軍需品が優先的に生産された。しかし，戦時動員に日本の国力はたえられず，結局，アジア太平洋戦争は敗戦に終わった。

いわゆる「戦後」において，現在までながらく戦争が起きていないと思われがちであるが，日本人にとって戦争が無関係になったわけではない。たとえば，朝鮮戦争に際し，日本政府は機雷掃海のため海上保安庁所属の掃海部隊を派遣して，「戦死者」を出している。また，GHQの指令で，警察予備隊が新設されたが，これは事実上の再軍備といえる。独立回復とともに警察予備隊は保安隊に改組され，海上警備隊が新設された。そして，1954年に締結された⑳〔㋑　日米安全保障条約　㋺　日米行政協定　㋩　MSA協定　㋥　日米地位協定　㋭　日米新安全保障条約〕を受けて，保安隊・海上警備隊は統合されて自衛隊とされた。

Ⅱ　次の文章を読み，〔　　〕内の語句から最も適切な語句を１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

鷹見泉石という武士がいる。古河藩の藩士で家老などを務めるとともに，蘭学を好んだ。『慎機論』を記した (1)〔㋑　渡辺崋山　㋺　高野長英　㋩　高橋至時　㋥　佐久間象山　㋭　江川英龍〕による肖像画「鷹見泉石像」は国宝である。

泉石が属した古河藩の歴史について，かんたんに紹介すると，まず近世初期に，土井利勝が同地に移ってきた。利勝は近世初期の幕政で重要な役割を担った人物で，徳川秀忠や家光に重用された。なお，家光の時代の1632年には，肥後の大名である (2)〔㋑　福島正則　㋺　加藤忠広　㋩　細川藤孝　㋥　細川宗孝　㋭　細川重賢〕が改易されている。

さて，利勝の死去後もしばらくの間は，土井家が古河を領していたが，やがて別の地に移ることになった。これで土井家と古河との関係は途絶えたかにみえたが，その後，また土井利里の代に古河に戻ることになった。利里の２代後の藩主が利厚，その次の藩主が利位であり，鷹見泉石は，この利厚・利位に仕えた。

利厚・利位は，ともに老中を務め，さまざまな幕政上の問題に対処した。たとえば，利厚が老中の際には，近世日本の対外関係をおおきく揺さぶる事件が頻発した。具体的には，レザノフの来航やゴローウニン事件などである。そのためか，泉石は，ロシア・蝦夷地関係の資料を多数書写している。なお，ゴローウニンは (3)〔㋑　『赤蝦夷風説考』　㋺　『海国兵談』　㋩　『宇下人言』　㋥　『日本幽囚記』　㋭　『新論』〕を書き記している。

泉石の事績として著名なのは，大塩の乱における活躍である。天保年間には深刻な飢饉が全国的に起き，多くの被害が生じた。1836年には，(4)〔㋑　甲斐　㋺　安房　㋩　出羽　㋥　三河　㋭　陸奥〕国加茂郡で大規模一揆が発生した。加茂郡での一揆には，約240ヶ村１万人以上が参加したという。

天下の台所である大坂でも甚大な被害が生じ，多数の餓死者が出た。しかし，大坂町奉行はそのような状況でも，大坂から (5)〔㋑　薩摩　㋺　神戸　㋩　江戸　㋥　琉球　㋭　蝦夷地〕に大量の米を送っていた。また，商人らが米の買い占めを行い，暴利を得てもいた。そのような中，大坂町奉行所の元与力である大塩平八郎

は，門弟らとともに武装蜂起した。この蜂起に対して鎮圧にあたったのが，当時，大坂城代であった土井利位で，その家臣である泉石も大塩の捕縛などで功績をあげた。大塩の乱自体はすぐに鎮圧されたが，その影響は全国に広がり，越後柏崎では，生田万が陣屋襲撃事件を起こしている。

土井利位はその後も順調に昇進し，やがて老中となった。老中水野忠邦が主導した天保の改革においては，はじめ忠邦に協力的であったが，江戸や大坂周辺の土地50万石ほどを幕府直轄地にしようとした (6)〔㋑ 三方領知替え ㋺ 上知令 ㋩ 人返しの法 ㋥ 相対済し令 ㋭ 旧里帰農令〕をめぐり，忠邦と対立したという。忠邦辞職後は，老中首座となった。

泉石の交流関係は幅ひろく，泉石の墓碑銘の撰者は，仙台藩士大槻磐渓である。彼の父親は大槻玄沢で，江戸の蘭学塾 (7)〔㋑ 咸宜園 ㋺ 鳴滝塾 ㋩ 古義堂 ㋥ 芝蘭堂 ㋭ 適々斎塾〕を開いたことで，知られていよう。泉石は，オランダ通詞や酒井抱一，谷文晁らとも交流していたようである。

1846年には隠居したが，幕末には「愚意摘要」を記し，開国の必要性を論じている。その後，1858年に死去した。なお，隠居の年である1846年には，アメリカ東インド艦隊司令長官 (8)〔㋑ ハリス ㋺ ペリー ㋩ ビッドル ㋥ ヒュースケン ㋭ ヘボン〕が浦賀に来航している。

ちなみに，古河藩では医学も盛んで，18世紀後半には藩医である河口信任が人体解剖を行っている。日本における人体解剖関係の著作としては，(9)〔㋑ 山脇東洋 ㋺ 稲村三伯 ㋩ 杉田玄白 ㋥ 塙保己一 ㋭ 志筑忠雄〕が書き記した日本最初の解剖図録である『蔵志』がとくに有名であろう。また，古河藩は，日光道中に位置していたため，将軍の日光社参などでは多大な労苦を強いられたという。土井利位の時代でいうと，将軍徳川 (10)〔㋑ 家斉 ㋺ 家茂 ㋩ 慶喜 ㋥ 家重 ㋭ 家慶〕が，67年ぶりに日光社参を行っている。

Ⅲ 次の文章を読み，(1)〜(10) の空欄および下線部について，下記の設問に答えなさい。〔解答用紙マーク〕(20点)

日清戦争勝利(1)の結果，日本は台湾を領有することとなり，1895年に台湾総督府を設置した。それまで日本との関係が乏しかった複数の民族の居住する新たな領土の占領であり，初期には台湾住民の強い抵抗に対応するために軍政が敷かれた。総督府のトップとなる初代台湾総督には，海軍大将の樺山資紀(2)が就任した。その後，民政に移行したものの，長期にわたって台湾総督は陸海軍人に限られ，1919年に初めて，文官の田健治郎が台湾総督に就任(3)した。

日本による台湾統治に対する住民の抵抗は強く，各地でゲリラ戦を展開，これを日本軍や総督府が弾圧して治めていった。1898年に第4代台湾総督に児玉源太郎が就任し，その片腕として，民政局長（のち民政長官）に [(4)] が就任してから，台湾におけるインフラ整備（水利灌漑施設，教育制度，医療・衛生環境の整備など）が本格的に進み始めた。なお，[(4)] は，のちに南満州鉄道初代総裁，内務大臣などを歴任し，関東大震災後には東京の復興案を立てるなどした。

[(4)] に請われて台湾総督府の初代殖産局長となった人物である [(5)] は，1901年，「[(6)] 改良意見書」を提出し，台湾における有望な産業として [(6)] の振興を強調した。台湾総督府は，これに基づいて振興政策を推進，生産量が増大していった。

そのほかに台湾の特産品として注目すべきものに樟脳がある。樟脳は，セルロイドの原料などに使用され，日本の樟脳生産は一時期，世界の3分の2強を占め，その大半が台湾において生産された。樟脳に関しては，鈴木商店(7)の金子直吉が [(4)] らに働きかけた結果，専売制度が取られることとなり，樟脳油の多くの販売権を獲得した鈴木商店は，これを契機に大きく発展した。

1918年の日本国内における米騒動を契機に，日本政府は朝鮮半島，台湾における米の増産を政策的に推進するために，朝鮮半島において産米増殖計画が立てられた。また，台湾に適した品種として日本向けの「蓬莱米」が開発され，次第に台湾に普及していった。これにともない，[(6)] の原料となる甘蔗栽培と米作との競合が生じた。このことは，[(6)] にとっては原料価格の高騰要因となった

が，台湾農業における新たなビジネスチャンスとともなった。また，台湾など外地からの移入米の増加は，のちに，日本における米価下落の一因とも考えられた。(8)(9)

以上のように，台湾は，長く日本統治下の植民地の歴史をたどった。しかし，第二次世界大戦中，1943年末，アメリカ・イギリス・中華民国国民政府の首脳会談を受けて発表された [(10)] の中で，連合国の戦争目的の一つとして，日本が台湾を中華民国に返還することなどの内容が盛り込まれた。

〔設問〕

(1) 1887年に『国民之友』を創刊し，「平民主義」を掲げていた人物が，下線部(1)の日清戦争を契機に対外膨張論を主張し，さらに日清戦争後に三国干渉を受けると，国家主義的傾向を強めていった。この人物名を以下の選択肢から1つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 高山樗牛　㋺ 徳富蘇峰　㋩ 黒岩涙香　㋥ 徳冨蘆花
㋭ 田口卯吉

(2) 下線部(2)の樺山資紀は，日清戦争直前の1894年7月，海軍の動員や作戦計画にあたる長官職に任命された。この職名を以下の選択肢から1つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 連合艦隊司令長官　㋺ 海軍大臣　㋩ 海軍軍令部長
㋥ 統合幕僚長　㋭ 海軍元帥

(3) 下線部(3)について，田健治郎の台湾総督就任にあたっては，台湾総督の軍人専任を改めようとする当時の内閣総理大臣の意向が作用したものとされる。この時の内閣総理大臣の人名を以下の選択肢から1つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 高橋是清　㋺ 加藤友三郎　㋩ 加藤高明　㋥ 大隈重信
㋭ 原敬

(4) [(4)] にあてはまる人物名を以下の選択肢から1つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 後藤新平　㋺ 江藤新平　㋩ 乃木希典　㋥ 桂太郎
㋭ 三浦梧楼

(5) [(5)] の人物は，農業経済学者であったが，「武士道」を英文で書き上げて日本文化を紹介し，1920年代には国際連盟事務次長に就任するなど，国際的にも活躍した。[(5)] にあてはまる人物名を以下の選択肢から１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 河上肇　㋺ 横山源之助　㋩ 新渡戸稲造　㋥ 大内兵衛

㋭ 矢内原忠雄

(6) [(6)] にあてはまる産業の名称として最も適当なものを以下の選択肢から１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 塩業　㋺ 窯業　㋩ 水産業　㋥ 糖業　㋭ 林業

(7) 下線部 (7) の鈴木商店は，第一次世界大戦後の激しい恐慌によって大きな打撃を受けた。この時期の日本経済の動きに関して**適切でない**記述を以下の選択肢のうちから１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 1919年ごろから，重化学工業製品の輸入が増加し，日本国内の重化学工業の生産を圧迫した。

㋺ 第一次大戦期に商品先物市場で投機的活動を行っていた業者の多くが，1920年の戦後恐慌で大きな打撃を受けた。

㋩ 1920年の戦後恐慌では，綿糸など商品相場は大きく下落したものの，日本企業への成長期待が大きく，株式市場の株価は全く下落することなく，上昇を続けた。

㋥ 第一次世界大戦後，ヨーロッパの復興が進み，アジアにおいてもヨーロッパ諸国の輸出商品が増加するようになってきたため，日本企業は打撃を受けた。

㋭ 1917年に金輸出禁止がなされ，金本位制の機能が制限されたことから，日本円の為替レートは安定せず，1920年代にかけて比較的大きく変動するようになった。

(8) 下線部 (8) の「外地」は公的な用語ではないが，「内地」に対するものとして，戦前期において，台湾，樺太，朝鮮，南洋諸島等を指す呼称として一般に用いられた。「外地」のうち，南洋諸島（南洋群島）は，第一次大戦時に日本が占領した赤道以北のドイツ領をもとに，のちに国際連盟により認め

られた委任統治領であった。国際連盟の委任統治領となった日本の南洋諸島に含まれる地域として適切なものを以下の選択肢のうちから，１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ グアム島　㋺ パラオ諸島　㋩ ガダルカナル島

㋥ レイテ島　㋭ ビスマルク諸島

(9) 下線部 (9) の米価だけでなく，1920年代末から1930年代初めにかけて，日本国内では，繭，化学肥料など多くの商品の価格が低下した。このような価格低下には多様な要因が作用しているものと考えられるが，この時期の日本国内における多くの商品の価格低下の要因として，**適切でない**ものを以下の選択肢のうちから，１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 浜口雄幸内閣のもとでの金輸出解禁

㋺ 井上準之助蔵相が進めた緊縮財政政策

㋩ アメリカでの株価暴落を契機に始まった世界恐慌

㋥ 日本に輸入される商品に対する関税の引き上げ

㋭ 海外企業が大量生産して供給過剰となった製品の日本への輸出

(10) [(10)] にあてはまる語句を以下の選択肢のうちから，１つ選び，その符号を解答欄にマークしなさい。

㋑ 連合国共同宣言　㋺ 大東亜共同宣言　㋩ 大西洋憲章

㋥ ポツダム宣言　㋭ カイロ宣言

Ⅳ　次の文章を読み，(1)〜(10) の空欄および下線部について，下記の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(20点)

「門跡（もんぜき）」という言葉をご存知だろうか。

この言葉の意味や用法の細かい部分は，時代によって一定しない面もあるが，大意としては，「皇族や公家の出身人物が住する特別な寺院」となる。

古くは，宇多天皇(1)と仁和寺の関係がある。897年に譲位した宇多天皇は，899年には出家して仁和寺に入り「法皇」の立場になる。天皇自身の仏道への帰依は深かったとも伝えられるが，出家以降も法皇と政治との関与は途絶えなかった。仁和寺は，宇多天皇との関係で真言宗系となり，後に宇多天皇の血縁者が経営し，やがては皇族出身者が入る寺院という格を築いていくことになる。

大覚寺は「嵯峨御所」という呼び名を持つように嵯峨天皇(2)ゆかりの寺院である。ただし嵯峨天皇自身が出家したわけではなく，譲位後の離宮としていた場所が寺院に改められ，天皇の甥にあたる人物が初代住職となった。後代になると，後宇多上皇が1307年に出家した後，法皇として大覚寺を整備し，同地を院政の場とする。後宇多法皇を含む血統は，父にあたる亀山法皇を起点とする「大覚寺統(3)」とも呼ばれるが，実は，亀山法皇が出家したのは「禅林寺殿」(後の南禅寺(4)) であった。

天台宗系の門跡である青蓮院は元々，比叡山内にあったが，12世紀の半ばに京都（現在地の近辺）へ移転し，時の鳥羽上皇と美福門院(5)の帰依を受けた。青蓮院の門主としては，九条兼実の弟で後に天台座主となる慈円(6)や，クジで室町幕府の将軍に決まったことで知られる義円(7)などがおり，青蓮院の建物自体も江戸時代の一時期には上皇の仮御所(8)となったことがある。

南都（奈良）では，[(9)] の門跡が知られている。[(9)] は元来，藤原氏の氏寺であるが，寺内にある大乗院は1087年に藤原氏の血縁者によって開かれて以来，特に摂関家の九条家との関わりが深い。[(9)] にはもう一つ，一乗院という門跡があり，こちらは摂関家の中でも近衛家と関係があり，やがては皇族を迎えるようにもなった。近衛家と血縁のあった覚慶(10)も一乗院の院主だったことがあり，こちらはやがて室町幕府最後の将軍となる。

〔設問〕

(1) 下線部 (1) に関して，宇多天皇が重用した人物は，天皇が譲位し，出家した２年ほど後に大宰権帥に左遷された。この人物名を答えなさい。

(2) 下線部 (2) に関して，嵯峨天皇，空海と並んで「三筆」に数えられる人物名を答えなさい。

(3) 下線部 (3) に関して，いわゆる両統迭立で大覚寺統と皇位を争った皇統名を答えなさい。

(4) 下線部 (4) に関して，後に南禅寺の塔頭である金地院に住した僧は，徳川家康の顧問的な立場となり，1615年に出された幕府の大名統制に関わる基本法の起草に携わったとされる。この基本法の名称を答えなさい。

(5) 下線部 (5) に関して，この人物は後の保元の乱の勢力図でも重要な位置にあったとされる。この乱で崇徳上皇方について失脚した摂関家の人物で「悪左府」と呼ばれ，日記『台記』をのこしたことでも知られる人物名を答えなさい。

(6) 下線部 (6) に関して，「道理」による解釈が特徴とされる，この人物が書いた歴史書の書名を答えなさい。

(7) 下線部 (7) に関して，この人物が還俗した後，室町幕府六代将軍として名乗った人物名を答えなさい。

(8) 下線部 (8) に関して，この原因となった天明の大火では，御所や二条城などのほかに，朝廷の監察，京都の治安維持，西国大名の監視などを目的に設置され，老中につぐ，ともされていた職についた人物が政務をとる建物も被害に遭った。この職名を答えなさい。

(9) [(9)] にあてはまる寺院名を答えなさい。

(10) 下線部 (10) に関して，後に将軍となるこの人物は，一乗院を出てから織田信長の庇護下に入る前，越前を領し一乗谷を拠点とする大名に身を寄せる時期があった。大名家訓でも知られるこの大名の氏族名を答えなさい。

V　次の文章を読み，下記の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(20点)

1956年に [(1)] が作成した『昭和三十一年度年次経済報告』，いわゆる経済白書の一節は次のように述べている。

「戦後日本経済の回復の速やかさには誠に万人の意表外にでるものがあった。(A) それは日本国民の勤勉な努力によって培われ，世界情勢の好都合な発展によって育まれた。(B) しかし敗戦によって落ち込んだ谷が深かったという事実そのものが，その谷からはい上がるスピードを速やからしめたという事情も忘れることはできない」。

さらに注目されるのは，この白書が「いまや経済の回復による浮揚力はほぼ使い尽くされた」，そうだからこそ「もはや『戦後』ではない」と指摘していることである。この白書によれば，「回復を通じての成長は終わった。今後の成長は近代化によって支えられる」ことになった。(C) あわせてこの白書は「世界の二つの体制の間の対立も，原子兵器の競争から平和的競存に移った」(D) との認識を示している。国内外の情勢が日本の高度経済成長を促そうとしていた。

〔設問〕

(1)　[(1)] にあてはまる中央官庁の名称を答えなさい。

(2)　この白書が発表された年の日本経済は，天皇家が始まって以来の好景気ということで，[(2)] 景気と呼ばれた。[(2)] にあてはまる語句を答えなさい。

(3)　この白書が発表された年の日本外交は，新たな展開を示している。たとえば [(3)] 首相が日ソ共同宣言に調印している。あるいはこの年，日本は国際連合に加盟している。[(3)] にあてはまる人物名を答えなさい。

(4)　下線 (A) に関して，次の文章の [(4)] にあてはまる語句を答えなさい。

1948年12月，占領当局は，日本経済の自立を目的とする [(4)] 原則による引き締め政策を指示した。

(5)　下線 (A) に関して，次の文章の [(5)] に最もよくあてはまる語句を答え

なさい。

日本経済は，ドッジ＝ラインに基づく赤字を許さない [(5)] 予算の実施によって深刻なデフレーションと不況に陥ったものの，復興の基盤が築かれた。

(6) 下線 (B) に関して，「世界情勢」の一つの結果として，1950年代前半にアメリカ軍による膨大な発注を受けたことをきっかけとして，[(6)] 景気が起きた。[(6)] にあてはまる語句を答えなさい。

(7) 下線 (C) に関して，次の文章の [(7)] にあてはまる語句を答えなさい。

経済の「近代化」は1960年代の高度経済成長をもたらす。この高度経済成長の背景には，[(7)] から石油へのエネルギーの急速な転換があった。

(8) 下線 (C) に関して，次の文章の [(8)] にあてはまる語句を答えなさい。

経済の「近代化」による高度経済成長は，他方で熊本県の [(8)] などの公害病をもたらした。

(9) 下線 (C) に関して，次の文章の [(9)] にあてはまる語句を答えなさい。

経済の「近代化」による高度経済成長は，公害病をもたらした。そこで1967年に公害を規制する [(9)] という法律が制定された。

(10) 下線 (D) に関して，次の文章の [(10)] にあてはまる条約の名称を答えなさい。

「原子兵器の競争」は，1963年にアメリカ・イギリス・ソ連の間で [(10)] が調印されたことによって，抑制に向かった。